

学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

| | | |
|----------------------|------------|--|
| 私のプロフィール | |  |
| 氏名 | 岡田 崇宏 | |
| 勤務先 | 長岡市立阪之上小学校 | |
| ○ 担当学年・実践教科 5年・算数 | | |

★取組の方向

| | |
|-------------|---|
| 私 | <p>「だから筆算で求めることができるんだ。」子どもが計算の意味理解をした後、筆算のやり方に出会った場面である。私は、子どもに繰り返し計算をさせ、習熟を図る授業ではなく、子どもが本質的な意味理解を図ることができる授業を構想してきた。「計算のやり方さえわかればいい」「答えがわかればいい」と感じる子どもから、「なぜ、そうなっているんだろう」と解法の仕組みに目を向け、考える子どもを育てたい。子どもは、学習対象のもつ解法の仕組みを考え、気づきや発見する活動を通して、本質的な意味理解へとつながっていくと考える。そのために、子どもにとって必要感のある問いの設定、自分の考えを明確にするための手段として絵や図の活用、自分の考えと友達の考えを交流するための話し合い活動を重視してきた。</p> |
| 学級の実態 | <p>直感的にもものをとらえる子どもが多く、文章問題の一部を読んで解法を判断する傾向などが見られる。学力指導改善調査でも、規準量を超える分数の問題（1（2））では、ほとんどの子ども（77%）が、2mを6つに分けてあるのにも関わらず、「図が6つに分けられている」ことのみに着目し、1/6mと誤答した。また、1/3mと正答をした子どもでも、単位分数を根拠にして、説明することはできなかった。子どもは分数についての理解を「〇つに分けたうちのいくつ分」でしかとらえておらず、単位分数として見ていないことがわかった。これらから、分数に対しての意味理解が不十分であったと考える。</p> |
| 今後5年生の指導の方向 | <p>分数のもっている意味について子どもが再確認することが必要だと考える。5年生では、「商分数」について学習する。「商分数」はわり算の答えを整数や小数だけでは答えが出せないものも、分数として答えを出すことできるよさがある。しかし、子どもは「商分数」を分子÷分母と機械的に求めてしまうのではないかと考える。そこで「なぜ、そのようになっているか」という問いをもたせ、整数・小数・分数の関連をはかりながら、意味理解を図っていきたい。どのようにしたら、子どもが分数の意味について着目し、理解することができるのか提案していききたい。</p> |